

2026 年度対応 大阪大学予想問題

大阪大学予想問題 第1回 解答用紙 解答

設問(1)

(i)(ロ) (ii)(イ) (iii)(イ) (iv)(ハ) (v)
(ロ) (vi)(イ)

設問(2)

その場にはいない特定の仲間の口笛をまね、その
個体を指したり呼びかけたりする能力。

〔42 字〕

設問(3)

各種は異なる社会環境で異なる伝達上の問題に
直面し、それぞれの社会的圧力のもとで独自の
伝達体系を進化させてきたから。

〔61 字〕

設問(4)

(ロ)・(ホ)

解答解説

設問(1) 語彙問題

(i) 正解:(ロ)similar to
analogous to は「～に類似している」「～に相
当する」という意味です。

本文では、

Do some nonhuman species possess
something analogous to names?

とあり、「人間以外の種も、名前に相当するものを
持っているのか」という意味になります。

(イ)separate from「～から離れた」

(ロ)similar to「～に似た」

(ハ)made from「～から作られた」

(ニ)better than「～より優れた」

したがって、(ロ)が正解です。

(ii) 正解:(イ)actively

vigorously は「活発に」「力強く」という意味で
す。

本文では、

dolphins have responded more
vigorously to the whistle of a familiar
companion

とあり、イルカが見知らぬ個体の口笛よりも、よく
知っている仲間の口笛に「より強く反応した」とい
う意味です。

(イ)actively「活発に」

(ロ)calmly「落ち着いて」

(ハ)correctly「正しく」

(ニ)secretly「ひそかに」

したがって、(イ)が正解です。

(iii) 正解:(イ)uncertain

equivocal は「はっきりしない」「解釈が定まら
ない」という意味です。

直後には、

it remains uncertain whether
elephants intentionally coin such
labels

とあり、ゾウがそのようなラベルを意図的に作っ
ているのかどうかは不明だと説明されています。

(イ)uncertain「不確かな」

(ロ)convincing「説得力のある」

(ハ)irrelevant「無関係な」

(ニ)invisible「目に見えない」

したがって、(イ)が正解です。

(iv) 正解:(ハ)invent

coin は、動詞で「新しい語句や名称を作り出
す」という意味です。

本文では、

whether elephants intentionally coin
such labels

とあり、「ゾウが意図的にそのようなラベルを作り
出しているのか」という意味になります。

(イ)preserve「保存する」

(ロ)recognize「認識する」

• (ハ)invent「作り出す」

(ニ)repeat「繰り返す」

したがって、(ハ)が正解です。

(v) 正解:(ロ)require

stipulate は「～を条件として定める」「～と規定する」という意味です。

本文では、

If researchers stipulate that a nonhuman naming system must exhibit every feature of human names

とあり、「人間以外の命名体系も、人間の名前のすべての特徴を備えなければならないと研究者が規定するなら」という意味です。

(イ)assume「仮定する」

(ロ)require「必要とする・条件とする」

(ハ)discover「発見する」

(ニ)deny「否定する」

したがって、(ロ)が正解です。

(vi) 正解:(イ)too broad

indiscriminate は「無差別な」「区別を設けない」という意味です。

本文では、名前の定義を広げすぎると、

an animal's scent or coloration might also qualify as a name

とあり、動物のにおいや体色まで「名前」に含まれてしまうと述べられています。つまり、定義が広すぎて有効な区別ができなくなるということです。

(イ)too broad「広すぎる」

(ロ)too complex「複雑すぎる」

(ハ)too unfamiliar「なじみがなさすぎる」

(ニ)too limited「限定されすぎる」

したがって、(イ)が正解です。

設問(2)

下線部(A) This capacity to refer beyond the immediate context とは、イルカのどのような能力を指すか。本文の内容に従い、45字程度の日本語で説明しなさい。

対応箇所

第2段落

they sometimes imitate the whistles of absent individuals

第3段落

If one dolphin reproduces another's signature whistle to attract that animal's attention, the sound may designate a specific social partner

読み方

まず、This が受ける内容を確認します。

This capacity とは、

refer beyond the immediate context という能力です。

これは、目の前の状況に直接結び付いた信号を発する能力ではありません。第2段落では、イルカがその場にはいない仲間のシグネチャー・ホイッスルをまねることが述べられています。

さらに第3段落では、その音によって、

特定の仲間を指したり、その仲間の注意を引いたりする

可能性がある」と説明されています。

したがって、答案には次の二点を含めます。

- その場にはいない特定の仲間の口笛を再現すること
- その音によって、その仲間を指したり呼びかけたりすること

答案例

その場にはいない特定の仲間の口笛をまね、その音でその仲間を指したり呼びかけたりする能力。
[48字]

不十分な答案①

その場にはいない仲間の口笛をまね、その音によって仲間が誰であるかを正確に識別する能力。
[47字]

解説

「その場にはいない仲間」と「口笛をまねること」は書かれていますが、本文で重視されているのは、単に相手を識別することではなく、その音によ

2026 年度対応 大阪大学予想問題

て特定の仲間を指したり呼びかけたりすることです。

不十分な答案②

特定の仲間の口笛を再現し、その音を聞いた仲間の注意を引いて自分の存在を知らせる能力。

〔46 字〕

解説

仲間の注意を引くことは書かれていますが、その場にいない特定の個体を、その個体固有の音によって指し示すことが十分に表されていません。また、「自分の存在を知らせる」という内容は本文の説明とずれています。

ポイント

This＋抽象名詞が用いられている場合は、直前の表現だけを訳すのではなく、その内容を具体化している箇所を前の段落までさかのぼって探します。

この問題では、

absent individuals

another's signature whistle

designate a specific social partner

を結び付けることが重要です。

採点基準 8 点

- 「その場にいない仲間」を示している……3 点
- 「その仲間の口笛をまねる・再現する」を示している……2 点
- 「特定の個体を指す・呼びかける」を示している……3 点

設問(3)

下線部(B) We should not expect animal communication to reproduce human language in miniature. と筆者が述べるのはなぜか。本文の内容に即して、70 字程度の日本語で説明しなさい。

対応箇所

第 7 段落

Dolphins live in fluid societies in which individuals repeatedly separate and reunite.

Elephants maintain bonds across vast distances, while parrots inhabit crowded and acoustically complex communities.

Each species faces different communicative problems, and its signaling system has evolved under different social pressures.

読み方

下線部は、

動物のコミュニケーションが、人間の言語を縮小した形で再現することを期待すべきではないという意味です。

その理由は、下線部の直前に示されています。

イルカ・ゾウ・オウムは、それぞれ異なる社会環境で生活しています。

- イルカは、個体が何度も離れたり再会したりする流動的な社会で生活する
- ゾウは、遠く離れていても仲間との関係を維持する
- オウムは、個体数が多く、音響的にも複雑な集団で生活する

このように社会環境が異なれば、解決しなければならない伝達上の課題も異なります。そのため、それぞれの伝達体系は、人間の言語を不完全にまねたものではなく、異なる社会的圧力のもとで独自に進化したものだと考えられます。

答案には次の三点を含めます。

- 種ごとに社会環境が異なること
- 種ごとに伝達上の課題が異なること
- それぞれの環境に適した伝達体系を進化させたこと

答案例

各種は異なる社会環境で異なる伝達上の課題に直面し、それぞれ異なる社会的圧力のもとで、そ

の環境に適した独自の伝達体系を進化させてきたから。

〔68 字〕

不十分な答案①

各種はそれぞれ異なる社会環境で生活し、人間とは異なる方法で仲間と情報を伝え合いながら、それぞれの社会的な関係を維持しているから。

〔64 字〕

解説

「種ごとに社会環境が異なること」は書かれていますが、伝達上の課題が異なることと、異なる社会的圧力のもとで伝達体系が進化したことが示されていません。

また、「社会的な関係を維持していること」は本文の具体例には関係しますが、下線部の理由を十分に説明していません。

不十分な答案②

動物は人間とは異なる環境で生活し、それぞれの身体的能力や習性に応じて、人間とは違う独自の伝達方法を日常的に用いているから。

〔61 字〕

解説

字数はおおむね適切ですが、本文にある種ごとに異なる伝達上の問題に直面していることが抜けています。

また、「身体的能力や習性に応じて」という説明は本文の中心ではありません。本文では、伝達体系が異なる社会的圧力のもとで進化したことが重視されています。

ポイント

理由説明問題では、本文中の情報を並べるだけでなく、原因から結論までの流れを示す必要があります。

この問題では、

社会環境が異なる

↓

伝達上の課題が異なる

↓

それぞれ独自の伝達体系が進化する

という関係を答案にまとめます。

イルカ・ゾウ・オウムの具体例をすべて書く必要はありません。共通する内容を抽象化し、70 字程度に収めることが重要です。

採点基準 12 点

- 種ごとに社会環境が異なること……4 点
- 伝達上の問題・必要性が異なること……4 点
- 異なる社会的圧力のもとで独自の伝達体系を進化させたこと……4 点

設問(4) 内容一致問題

正解:(ロ)・(ホ)

(イ)誤り

Bottlenose dolphins are born with fixed signature whistles that are identical to those of their parents.

「ハンドウイルカは、親と同一の固定されたシグネチャー・ホイッスルを持って生まれる」

対応箇所

第 2 段落・第 2 文

During the first months of life, each dolphin develops a distinctive sound pattern known as a “signature whistle.” 「それぞれのイルカは、生後数か月の間に『シグネチャー・ホイッスル』と呼ばれる独特の音の型を発達させる。」

解説

本文では、イルカは生まれた時点ですでに固定された口笛を持っているのではなく、生後数か月の間に個体特有の口笛を発達させると述べられています。

また、親と同一の口笛であるとも書かれていません。むしろ distinctive「個体ごとに異なる」とあるため、選択肢は本文と一致しません。

(ロ)正しい

2026 年度対応 大阪大学予想問題

Dolphins sometimes reproduce the signature whistle of an absent companion to attract that individual's attention.

「イルカは、その場にはいない仲間の注意を引くために、その個体のシグネチャー・ホイッスルを再現することがある」

対応箇所

第 2 段落・第 5 文

More strikingly, they sometimes imitate the whistles of absent individuals.

「さらに注目すべきことに、イルカはその場にはいない個体の口笛をまねることがある。」

第 3 段落・第 4 文

If one dolphin reproduces another's signature whistle to attract that animal's attention, the sound may designate a specific social partner rather than a general category, an emotional state, or an external threat. 「あるイルカが別のイルカの注意を引くために、その個体のシグネチャー・ホイッスルを再現するのであれば、その音は特定の仲間を指す可能性がある。」

解説

第 2 段落では、その場にはいない仲間の口笛をまねることが述べられ、第 3 段落では、その目的が仲間の注意を引くことである可能性が示されています。

したがって、本文と一致します。

(ハ)誤り

Most animal signals refer to particular individuals independently of the immediate situation.

「動物の信号の大部分は、目の前の状況とは無関係に特定の個体を指す」

対応箇所

第 3 段落・第 1 文

This possibility is noteworthy because many animal signals are inseparable from immediate circumstances.

「この可能性が注目に値するのは、多くの動物の信号が目の前の状況と切り離せないからである。」

第 3 段落・第 2 文

An alarm call may indicate the presence of a predator, while a mating call may reveal the caller's physical condition.

「警戒声は捕食者の存在を示し、求愛の声は発信者の身体状態を表すことがある。」

解説

本文では、多くの動物の信号は目の前の状況と密接に結びついていると述べられています。

選択肢の independently of the immediate situation「目の前の状況とは無関係に」は、本文の inseparable from immediate circumstances「目の前の状況と切り離せない」と反対です。

また、多くの動物の信号が特定の個体を指すとも述べられていません。

(ニ)誤り

Researchers have established that elephants deliberately invent vocal labels for members of their social groups.

「研究者は、ゾウが集団の仲間に対する音声ラベルを意図的に作り出すことを立証した」

対応箇所

第 4 段落・第 5 文

However, it remains uncertain whether elephants intentionally coin such labels, acquire them through social interaction, or merely recognize complex sound

patterns associated with particular relationships.

「しかし、ゾウが意図的にそのようなラベルを作り出しているのか、社会的交流を通じて身につけているのか、それとも複雑な音の型を認識しているだけなのかは、依然として不明である。」

解説

本文では、ゾウが意図的に音声ラベルを作り出しているかどうかは、依然として不明であると述べられています。選択肢の have established 「立証した」は、本文の it remains uncertain 「依然として不明である」と矛盾します。

(ホ)正しい

Some parrots acquire distinctive contact calls through interaction with other members of their group.

「一部のオウムは、集団のほかの個体との交流を通して、個体特有の接触声を身につける」

対応箇所

第5段落・第2文

Some wild parrots acquire individually distinctive contact calls from members of their social group rather than generating them entirely on their own.

「一部の野生のオウムは、個体ごとに異なる接触声を完全に自力で作出すのではなく、社会集団のほかの個体から身につける。」

第5段落・第3文

Parents may modify their calls when interacting with chicks, and the young birds subsequently adopt similar patterns.

「親鳥はひなとやり取りするときに声を変えることがあり、若鳥はその後、それに似た音の型を取り入れる。」

解説

本文では、一部のオウムが社会集団の仲間から個体特有の接触声を身につけると述べられています。

また、親鳥との交流を通して、若鳥が似た音の型を取り入れることも示されています。したがって、本文と一致します。

(ヘ)誤り

Critics believe that a call announcing its producer's identity must always be regarded as a genuine name.

「批判的な研究者は、発信者の身元を知らせる声は必ず本当の名前とみなすべきだと考えている」

対応箇所

第5段落・第5文

Critics, however, caution that the calls may serve mainly to announce the caller's own identity.

「しかし、批判的な研究者は、その声が主として発信者自身の身元を知らせるために使われているにすぎない可能性を指摘する。」

第5段落・第6文

A genuine name, according to this stricter view, must also be usable by others wishing to refer to or address the individual concerned.

「この厳しい見方によれば、本当の名前とは、その個体を指したり呼びかけたりしようとするほかの個体も使用できるものでなければならない。」

解説

批判的な研究者は、発信者が自分自身の身元を知らせるだけでは、本当の名前とはいえないと考えています。本当の名前であるためには、ほかの個体はその個体を指したり呼びかけたりするためにも使える必要があるとされています。したがって、選択肢の must always be regarded as a genuine name は本文と反対です。

(ト)誤り

The author argues that animal communication systems are incomplete copies of human language.

「筆者は、動物の伝達体系は人間の言語の不完全なコピーだと主張している」

対応箇所

第 7 段落・第 6 文

We should not expect animal communication to reproduce human language in miniature.

「動物のコミュニケーションが、人間の言語を縮小した形で再現することを期待すべきではない。」

第 8 段落・第 3 文

Individual vocal labels would not erase the profound differences between animal communication and human language.

「個体を示す音声ラベルが存在しても、動物のコミュニケーションと人間の言語との大きな違いが消えるわけではない。」

解説

筆者は、動物の伝達体系を人間の言語の不完全なコピーや縮小版として理解すべきではないと述べています。

それぞれの動物の伝達体系は、異なる社会環境や伝達上の必要に応じて独自に進化したものです。したがって、選択肢は筆者の主張と反対です。

全訳

人混みの中で聞き慣れた声が自分の名前を呼ぶと、私たちは、ある特定の音が自分だけをほかの人々から選び出すために使われていることを即座に理解する。名前は人間の言語や文化にあまりにも深く根づいているため、私たちは名前を人間だけの発明だと考えがちである。しかし、イルカ、ゾウ、オウム、その他の社会的な動物の観察から、考えさせられる問いが生じている。人間

以外の種も、名前に相当するものを持っているのだろうか。その答えは、動物がどのような音を発するかだけでなく、命名という概念にどのような特徴が不可欠だと考えるかにも左右される。

ハンドウイルカは、最も説得力のある証拠のいくつかを提供している。それぞれのイルカは生後数か月の間に、「シグネチャー・ホイッスル」と呼ばれる独特の音の型を発達させる。この口笛は、集団内のほかの個体のものとは音響的に異なり、時間がたっても比較的安定している。イルカは仲間から離れたとき、自分自身のシグネチャー・ホイッスルを頻繁に発するが、それによってほかの個体が発信者を特定できるようになるらしい。さらに注目すべきことに、イルカはその場にはいない個体の口笛をまねることがある。録音再生実験では、イルカは見知らぬ個体の口笛よりも、よく知っている仲間の口笛に対して、より活発に反応した。こうした発見は、その口笛が発信者の感情状態を伝える以上の働きを示している。その個体が実際にはその場にはいない場合でも、特定の個体を指す音声ラベルとして機能している可能性がある。

この可能性が注目に値するのは、多くの動物の信号が目の前の状況と切り離せないからである。警戒声は捕食者の存在を示すことがあり、求愛の声は発信者の身体状態を表すことがある。それに対して名前は、それが発せられる状況からある程度独立して働くように思われる。あるイルカが別のイルカの注意を引くために、その個体のシグネチャー・ホイッスルを再現するのであれば、その音は一般的な分類、感情状態、外部の脅威ではなく、特定の仲間を指し示している可能性がある。目の前の状況を越えて何かを指し示すこの能力は、象徴的コミュニケーションの初歩的な形態とみなされることが多い。

ゾウから得られる証拠は興味深いのが、より解釈が定まらない。アフリカゾウは、かなり遠くまで届く低周波の声によって意思を伝える。近年の分析によれば、一部の声は、呼びかけられている個

体に応じて一定の仕方に変化する。研究者が録音した声をゾウに聞かせると、ゾウは自分に向けられたラベルを含むと考えられる声に対して、より素早く、より強く反応することがあった。しかし、ゾウが意図的にそのようなラベルを作り出しているのか、社会的な交流を通じて身につけているのか、それとも特定の関係と結びついた複雑な音の型を認識しているだけなのかは、依然として不明である。信号が個体に関する情報を伝えているからといって、より完全な意味で名前として機能しているとは限らない。

オウムは、それと関連しながらも異なる事例を示す。一部の野生のオウムは、個体ごとに異なる接触声を完全に自力で作りに出すのではなく、社会集団のほかの個体から身につける。親鳥はひなとやり取りするときに声を変えることがあり、若鳥はその後、それに似た音の型を取り入れる。こうした声は、生まれつきのものだけではなく社会的に伝えられるため、一部の研究者はその過程を命名になぞらえている。しかし、批判的な研究者は、その声が主として発信者自身の身元を知らせるために使われているにすぎない可能性を指摘する。この厳しい見方によれば、本当の名前とは、その個体を指したり呼びかけたりしようとするほかの個体も使用できるものでなければならない。

この論争は、より根本的な概念上の困難を明らかにしている。人間の名前は、注意を引き、一人の人間を別の人間から区別し、その場にいない人を指すことを可能にし、状況が変わっても比較的安定している。また、名前は社会的慣習によって与えられ、維持される。動物の信号は、これらの基準の一部を満たしていても、ほかの基準を満たしていないかもしれない。人間以外の命名体

系にも人間の名前が持つすべての特徴がなければならぬと研究者が規定すれば、より複雑な命名の慣行が進化するもととなった初歩的な形態を見落とす危険がある。しかし、個体情報を伝えるあらゆる信号を含むように定義を広げれば、その語はあまりにも無差別になり、動物のにおいや体色まで名前に含まれることになりかねない。

この意見の相違は、録音資料をさらに集めるだけでは解決できない。人間の言語は、ほかのすべてのコミュニケーション体系を測る基準として扱われることが多いが、その比較は誤解を招く可能性がある。イルカは、個体が繰り返し離れたり再会したりする、構成員の変化しやすい社会に暮らしている。ゾウは広大な距離を隔てても仲間との絆を保ち、オウムは個体数が多く、音響的にも複雑な集団で生活している。それぞれの種は異なる伝達上の問題に直面しており、その信号体系は異なる社会的圧力のもとで進化してきた。動物のコミュニケーションが人間の言語を縮小した形で再現すると期待すべきではない。

したがって、最も理解を深める問いは、動物が人間とまったく同じ意味で名前を持っているかどうかではないのかもしれない。それよりも、命名を構成するどの要素がそれぞれの種に見られ、それがどのような社会的目的を果たすのかを問う方が実り多いだろう。個体を示す音声ラベルが存在するとしても、それによって動物のコミュニケーションと人間の言語との間にある大きな違いが消えるわけではない。むしろそれは、人間の名前が、多くの社会的動物が共有する課題、すなわち変化し続ける社会の中で特定の個体を認識し、見つけ、指し示すという課題に対する、特に高度に発達した一つの解決法である可能性を示すのである。